発達障害児に関わる保育士の困りごとの一考察

○小正浩徳¹・滋野井一博¹・赤田太郎²・友久久雄¹

(¹ 龍谷大学文学部・² 龍谷大学短期大学部)

キーワード：困りごと 保育士 発達障害児

A Report of Perception of Difficulties of Nursery School Teachers involved in the care of Developmental disorder children

Hironori KOMASA¹, Kazuhiro SHIGENOI¹, Taro AKADA² and Hisao TOMOHISA¹

(¹ Faculty of Letters Ryukoku Univ., ² Ryukoku Univ. Junior College)

Key Words: Perception of Difficulties, Nursery school teachers, Developmental disorder children

目 的

保育の現場に携わる保育士にとって、「気になる」子どもの存在は大きい。それは、如何に保育上関わるのかということとを常に考えることの連続となるからである。

特別支援教育が言われるようになり、発達障害に対する認知度が高まるにつれ、保育の現場では、「気になる」子どもの中に発達障害のある子どもも含まれていることが明らかとなってきている。

発達障害のある子どもに対して従来から行われているのが、療育であり、発達支援である。

保育の現場ではこうした療育・発達支援に携わる保育士も増えてきており、このような保育士への研修も多く行われている。

こうした療育・発達支援に携わることになって年数の浅い保育士（以下、「保育士」とする）にとっての困りごととはどのようなものであろうか。

今回、療育に関する「保育士」への研修会実施前に、現在保育の現場にて困っている事柄についてアンケート調査を行った。この結果を分析し、「保育士」にとっての困りごととは何かを明らかにしたい。

尚、今回「保育士」の経験年数は5年以下とした。

方 法

アンケート：「現在保育の現場にて困っている事柄」について、自由記述方式で回答を求めた。また、保育士としての経験年数を記載させた。

回 答 者：「保育士」11名。

アンケート実施時期： 2011年11月

結 果

アンケートで得られた回答を検討し、回答内容としてカテゴリ化し、そのカテゴリに属すると考えられた回答数を表1にまとめた。

なお、一つの回答において、複数カテゴリ化されたものもある。

考 察

アンケート内容をカテゴリ化した結果、『子どもへの接し方』に困っている「保育士」が多いことが明らかとなった。次いで、『具体的な発達支援の方法』、『保育士を困らせるような方法』、『子供の対人関係の支援方法』、『保護者との関わり方』となった。

最も多かった『子どもへの接し方』の内容について、自由

記述内容をさらに検討してみると、大きく3つに分けることが考えられた。それは、①【「保育士」自身の保育スキル】、②【子どもを成長させるための関わり方】、③【保育に携わる者としての不安】である。

①【「保育士」自身の保育スキル】とは、子どもとの遊びのバリエーションや子どもを楽しませること、子どもを保育者へと引きつけることの難しさをのべたものである。これらは、「保育士」に限らず、一般の保育士となって経験年数の浅い者も感じているものかもしれない。如何に子どもと関わるかということについて、経験年数の浅い保育士はその年齢も若く、保育士自身が子どもを育てた経験も少ないだろう。保育実習にて初めて子どもと出会い、保育の現場に入職して本格的に子どもたちとのやりとりを行い始めた状況であると考えられる。

②【子どもを成長させるための関わり方】とは、子どものできることを増やすことと気持ちを受け止めること、そのための方法について、また、子どもの行動に配慮し、他の子どもたち同様に関わることにについて述べたものである。ここには、集団の保育の中で、一人一人に目を配ることは、一般の保育でも同様に行っているが、それに加えて、療育・発達支援というその子どもに合わせた関わりを求められていることへの難しさが語られていると考えられる。

療育では、その子ども自身に目を向けられやすいが、発達支援の場では、集団保育の中での援助が行われることが多いため、「保育士」には、集団と個人という両方の側面を強く意識しなければならないことが求められるため、困りごととしてあげられたものと思われる。

③【保育に携わる者としての不安】とは、子どもへの接し方に不安を覚え、それゆえに必死に関わってしまうと述べられたものである。

これは上記の①、②をふまえて、「保育士」自身が感じているものと思われる。この不安をどのように解消していくのか、不安が自信として変化していくにはどうすればよいのかは今後検討を行う必要がある。

表1 「保育士」の困りごとと内容

回答内容	人数
子どもへの接し方	5
子どもの対人関係の支援方法	1
具体的な発達支援の方法	2
保育士を困らせるような行動への対応	2
保護者との関わり方	1
記載なし	1